

# 救急救命学科 カリキュラム

## 〈2年次〉

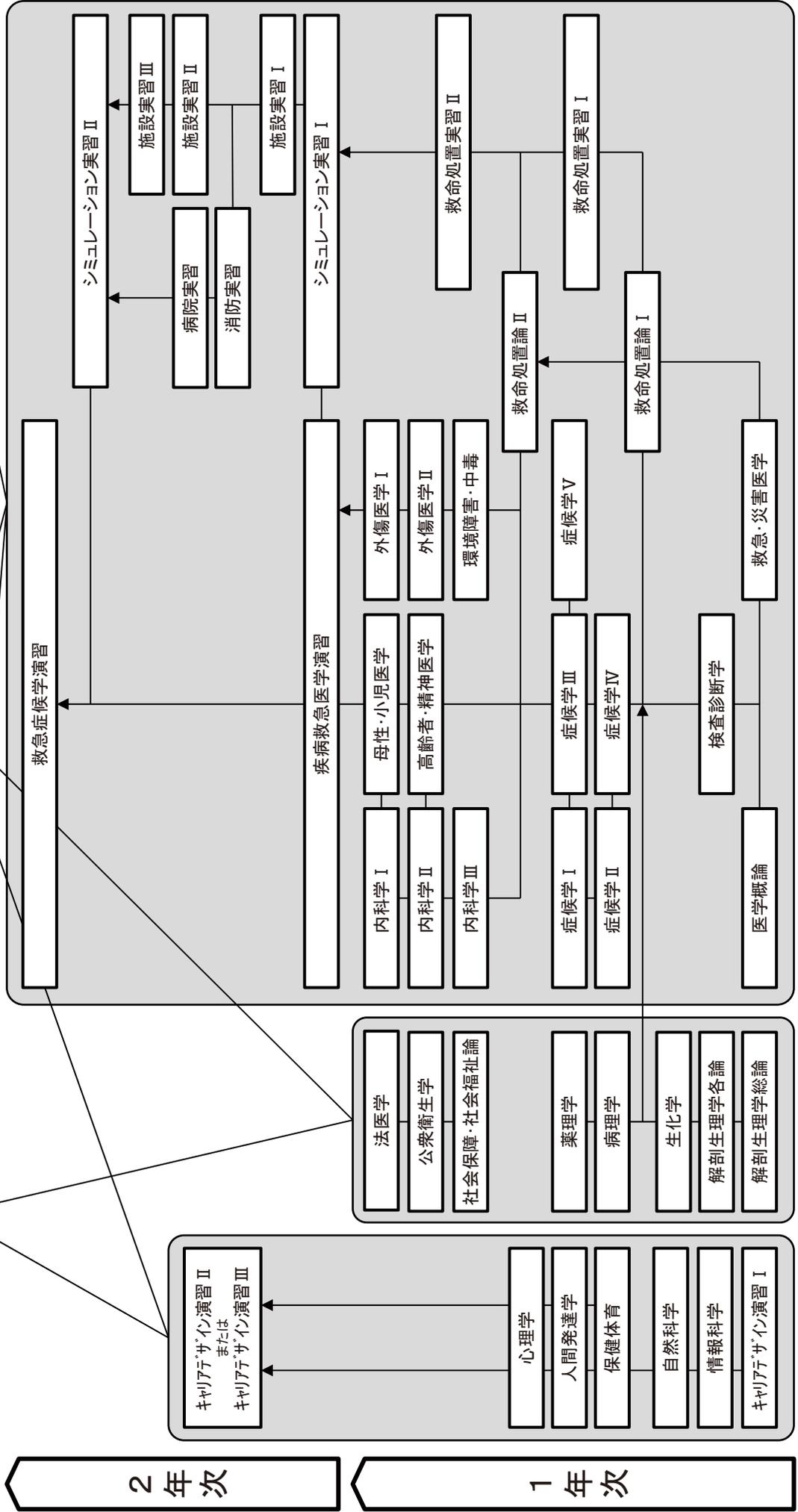
分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と人間生活	自然科学	1	15			1	15		8
		情報科学	1	15			1	15		
		心理学	1	15			1	15		
		人間発達学	1	15			1	15		
		キャリアデザイン演習Ⅰ	3	90			3	90		
		キャリアデザイン演習Ⅱ			3	90	3	90	2科目のうち 1科目選択	
		キャリアデザイン演習Ⅲ								
保健体育	2	60			2	60	実技・講義			
基礎分野	小計	9	210	3	90	12	300		8	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学総論	1	15			1	15		4
		解剖生理学各論	2	30			2	30		
		生化学	1	15			1	15		
	疾患の成り立ちと回復の過程	薬理学	1	15			1	15		4
		病理学	2	30			2	30		
		法医学	1	15			1	15		
	健康と社会保障	公衆衛生学	1	15			1	15		2
社会保障・社会福祉論		1	15			1	15			
専門基礎分野	小計	10	150	0	0	10	150		10	
専門分野	救急医学概論	医学概論	1	15			1	15		6
		救急・災害医学	2	30			2	30		
		検査診断学	1	15			1	15		
		救命処置論Ⅰ	2	30			2	30		
		救命処置論Ⅱ	2	30			2	30		
	救急症候・病態生理学	症候学Ⅰ	2	30			2	30		8
		症候学Ⅱ	2	30			2	30		
		症候学Ⅲ	2	30			2	30		
		症候学Ⅳ	2	30			2	30		
		症候学Ⅴ	2	30			2	30		
		救急症候学演習			2	60	2	60		
	疾病救急医学	内科学Ⅰ	2	30			2	30		8
		内科学Ⅱ	2	30			2	30		
		内科学Ⅲ	2	30			2	30		
		母性・小児医学	2	30			2	30		
		高齢者・精神医学	2	30			2	30		
		疾病救急医学演習			4	120	4	120		
	外傷救急医学	外傷医学Ⅰ	2	30			2	30		4
		外傷医学Ⅱ	2	30			2	30		
	環境障害・急性中毒学	環境障害・急性中毒学	1	15			1	15		1
	臨地実習	救命処置実習Ⅰ	2	90			2	90		25
		救命処置実習Ⅱ	3	135			3	135		
		シミュレーション実習Ⅰ			4	180	4	180		
シミュレーション実習Ⅱ				6	270	6	270			
消防実習				3	135	3	135			
病院実習				4	180	4	180			
施設実習Ⅰ				1	45	1	45			
施設実習Ⅱ				1	45	1	45			
施設実習Ⅲ			1	45	1	45				
専門分野	小計	38	720	26	1080	64	1800		52	
	総計	57	1080	29	1170	86	2250		70	

# 救急救命学科カリキュラムツリー

人間性豊かで、協調性を持ち、何事にも積極的に取り組む、自ら学び続けることができる

修得した専門的知識を総合して症状・徴候を評価し、必要な処置を選択できる

傷病者に必要な救急救命処置を的確かつ安全に実施できる



基礎分野

専門基礎分野

専門分野

2 年 次

## 目次：救急救命学科 2 年次

キャリアデザイン演習Ⅱ	409
キャリアデザイン演習Ⅲ	410
救急症候学演習	411
疾病救急医学演習	412
シミュレーション実習Ⅰ	413
シミュレーション実習Ⅱ	414
消防実習	415
病院実習	416
施設実習Ⅰ	417
施設実習Ⅱ	418
施設実習Ⅲ	419

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	キャリアデザイン演習Ⅱ
代 表 講 師	池 田 光 隆 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	演 習	単位数	3	学期・回数	前期：45回(90時間)
授 業 概 要	キャリアデザイン演習Ⅰでの学びを基に、就職するために、より直接的に必要な知識・技術・態度を総合的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	1. 相手に伝わる志望理由や自己推薦文を書く・話すことができる。 2. 社会人としてのマナーを身に付け実践することができる。 3. 文章読解・作成検定に合格する。 4. 公務員採用模擬試験に合格する。				
成績評価の方法と基準	到達目標1：ルーブリックを用いた自己紹介書及び模擬面接の評価(20%) 到達目標2：ルーブリックを用いた態度評価(20%) 到達目標3：文章読解・作成検定の成績(30%) 到達目標4：公務員採用模擬試験の成績(30%)				
テキスト・教材等	『文章検公式テキスト3級』、『基礎から学べる！文章力ステップ3級対応』 『消防官採用試験 面接試験攻略法』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
全1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法)				後藤正和
全6回	文章読解・作成の基本を学ぶ				〃
全6回	相手に伝わる文書の書き方・伝わる話し方を学ぶ				後藤正和 池田光隆
全2回	社会人としてのマナーを学ぶ				特別講師
全30回	就職試験対策として以下の知識を学ぶ 1. 国語(作文・文芸・漢字) 2. 数的推理・数的判断 3. 社会科学(政治・経済・倫社) 4. 人文科学(日本史・世界史) 5. 時事・社会 6. 資料 7. 適性 8. その他 特別講師：学校法人 熊本壺溪塾学園講師				特別講師 池田光隆

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科目名	キャリアデザイン演習Ⅲ
代 表 講 師	後 藤 正 和 (救急救命士)				
授 業 方 法	演 習	単位数	3	学期・回数	前期：45回(90時間)
授 業 概 要	キャリアデザイン演習Ⅰでの学びを基に、就職するために、より直接的に必要な知識・技術・態度を総合的に学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	1. 相手に伝わる志望理由や自己推薦文を書く・話すことができる。 2. 社会人としてのマナーを身に付け実践することができる。 3. 文章読解・作成検定に合格する。 4. 専門学校生のための就職筆記試験 Web テストに合格する。				
成績評価の方法と基準	到達目標 1：ループリックを用いた自己紹介書及び模擬面接の評価 (20%) 到達目標 2：ループリックを用いた態度評価 (20%) 到達目標 3：文章読解・作成検定の成績 (30%) 到達目標 4：就職試験 Web テストの成績 (30%)				
テキスト・教材等	『文章検公式テキスト 3 級』、『基礎から学べる！文章力ステップ 3 級対応』 『消防官採用試験 面接試験攻略法』 『専門学校生のための就職筆記試験対策問題集【Web テスト付】』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
全 1 回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法)				後藤正和
全 6 回	文章読解・作成の基本を学ぶ				〃
全 6 回	相手に伝わる文書の書き方・伝わる話し方を学ぶ				後藤正和 池田光隆
全 2 回	社会人としてのマナーを学ぶ				特別講師
全30回	就職試験対策として以下の知識を学ぶ。 1. 国語 2. 社会 3. 数学 4. 英語 5. 一般常識 6. 適性				後藤正和

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	救急症候・病態生理学	科目名	救急症候学演習
代 表 講 師	後 藤 正 和 (救急救命士)				
授 業 方 法	演習・講義	単位数	2	学期・回数	前期：30回(60時間)
授 業 概 要	学外での臨地実習(特に消防実習、病院実習)の前提として症候・病態について総合的に演習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	1. 症例・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法を説明できる。 2. 症候・病態と疾病を関連付けることができる。				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(20%)、総括テスト(80%)				
テキスト・教材等	『PEMECガイドブック2023』、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』 (参考『病気がみえるシリーズ1、2、4、5、6、7、8、10』、かんテキ循環器)				
回 数	授 業 内 容				
第1回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法)				
第2回 ～ 第5回	1年次授業確認テスト(国家試験形式)				
第6回	PEMECアルゴリズムを学ぶ①、小テスト				
第7回	PEMECアルゴリズムを学ぶ②、小テスト				
第8回	PEMECアルゴリズムを学ぶ③、小テスト				
第9回	オーラルシミュレーション①「呼吸困難」、小テスト				
第10回	オーラルシミュレーション②「胸痛、動悸、腰・背部痛」、小テスト				
第11回	オーラルシミュレーション③「腹痛、吐血・下血」、小テスト				
第12回	オーラルシミュレーション④「体温異常」、小テスト				
第13回	オーラルシミュレーション⑤「頭痛、めまい、痙攣、運動麻痺、失神」、小テスト				
第14回 ～ 第26回	シミュレーションシナリオ作成をとおして症状・徴候から疾患を想起する力を身に付ける				
第27回 ～ 第30回	総括テスト(国家試験形式)				

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	疾病救急医学	科目名	疾病救急医学演習
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	演習・講義	単位数	4	学期・回数	前期：60回 (120時間)
授 業 概 要	2年次最終の授業として、疾病救急医学をはじめ、専門基礎分野及び専門分野の全科目を総合的に演習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。 ※この授業の学修成果をもって救急救命士法第34条第1号に定める国家試験受験資格(知識)を判定する。				
到 達 目 標	1. 自己分析を行い、各自が到達目標を設定し専門基礎科目の学力を向上させる。 2. 自己分析を行い、規則正しい学習習慣を定着させ、自己調整力を身に付けることができる。 3. 専門分野の弱点について各自が到達目標を設定し、知識の定着を図り国試合格基準を超えることができる。				
成績評価の方法と基準	評価対象模擬試験の合計 (50%) 第57回～第60回授業で実施する総括テスト (50%) ※出題形式及び採点は国家試験に準ずる。				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック』 イラストで解る救急救命士国家試験直前ドリル (参考『病気がみえるシリーズ1、2、4、5、6、7、8、10』、かんテキ循環器)				
回 数	授 業 内 容				
第1回～第4回	国家試験形式模擬試験				
第5回 第6回	ガイダンス (授業の進め方と評価方法) 国家試験形式模擬試験の結果から考察する自己分析 症例問題の解き方のコツ① 短期学習計画立案				
第7回	症例問題解法のコツ② 症例問題解説				
第8回～第10回	問題解説作成				
第11回 第12回	演習問題「観察」				
第13回～第16回	問題解説作成				
第17回 第18回	演習問題「午後問題」				
第19回	症例問題解説				
第20回	問題解説作成				
第21回 第22回	演習問題「午前問題」				
第23回～第26回	問題解説作成				
第27回～第30回	評価対象模擬試験				
第31回 第32回	問題解説作成				
第33回 第34回	演習問題「午後問題」				
第35回	症例問題解説				
第36回	問題解説作成				
第37回 第38回	演習問題「午前問題」				
第39回～第42回	問題解説作成				
第43回～第46回	全国统一模試				
第47回 第48回	問題解説作成				
第49回～第52回	評価対象模擬試験				
第53回 第54回	演習問題「B問題対策」				
第55回 第56回	B問題対策 問題解説作成と解答				
第57回～第60回	総括テスト (国家試験受験資格評価)				

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨地実習	科目名	シミュレーション実習 I
代表講師	後藤正和(救急救命士)				
授業方法	実習	単位数	4	学期・回数	前期：90回(180時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	元消防官の救急救命士や看護師が救急現場・臨床での経験を活かし、救急救命士として必要な知識・技術・態度を指導する。				
授業概要	学外での臨地実習の前提として、1年次の講義や救命処置実習 I・II で学んだ知識・技術を応用した実践的な実習を行う。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義や救命処置実習 I・II で学んだ知識・技術を応用することができる。</li> <li>2. 的確な問診と観察により、臨床推論が展開できる。</li> <li>3. 多数傷病者への対応ができる。</li> <li>4. 効果的・効率的・魅力的な指導ができる。</li> <li>5. 人間性を磨き、積極的に社会貢献することができる。</li> <li>6. チーム医療に必要な協調性のある行動がとれる。</li> </ol>				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(30%)、実技達成度評価の合計(70%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020(医療従事者用)』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020(市民編・解説編)』、『改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック』、『標準 多数傷病者対応 MCLS テキスト』、『PEMEC ガイドブック 2023』 JPTEC プロバイダーコース e-learning サイト 他				
回数	授 業 内 容				担当講師
全3回	ガイダンス(授業の進め方と評価方法) 資機材取扱説明と準備				後藤正和
全12回	A項目「指導技法(BLS、規律訓練)」 小テスト、演習と振り返り				池田光隆 後藤正和
全10回	B項目「CPA 想定」 小テスト、実習、実技達成度評価				〃
全15回	C項目「外傷想定」 小テスト、実習、実技達成度評価(JPTEC プロバイダーコース)				〃
全5回	D項目「多数傷病者想定」 小テスト、実習、実技達成度評価				〃
全15回	E項目「内因・外因性想定」 実習、実技達成度評価				〃
全5回	F項目「高齢者想定」 小テスト兼 施設実習 I 履修条件確認試験、実習				岩永ひとみ
全10回	G項目「救急現場想定」 小テスト兼 消防実習履修条件確認試験、実習				池田光隆 後藤正和
全5回	H項目「病院内想定」 小テスト兼 病院実習履修条件確認試験、実習				〃
全10回	I項目「総合」 小テスト、実習、実技達成度評価				〃

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨地実習	科目名	シミュレーション実習Ⅱ
代表講師	後藤正和(救急救命士)				
授業方法	実習	単位数	6	学期・回数	後期：135回(270時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	元消防官の救急救命士と現役医師及び消防救急救命士である外部評価者が連携し、救急救命士として必要な知識・技術・態度を総括し、より実践的な技能を指導する。				
授業概要	外部評価者との連携のもと、それまでの学内・外での臨地実習を踏まえ、救急救命士として必要な知識・技術を総括し、より実践的な実習を行う。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。 ※この授業の学修成果をもって救急救命士法第34条第1号に定める国家試験受験資格(技能)を判定する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急隊長、隊員、機関員の役割に応じた活動ができる。</li> <li>2. 適切な観察と正しい判断による必要な処置ができる。</li> <li>3. 適応と実施する時期、または場所を考慮した特定行為ができる。</li> <li>4. 医師への適切な情報伝達ができる。</li> <li>5. 傷病者、家族等に対する適切なコミュニケーションがとれる。</li> <li>6. 傷病者及び家族等を演じるにより、その心情を表現できる。</li> </ol>				
成績評価の方法と基準	小テストの合計(30%)、外部評価者及び専任講師による評価表を用いた実技評価(70%)				
テキスト・教材等	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』、『改訂6版 救急蘇生法の指針2020(医療従事者用)』、『改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック』、『PEMECガイドブック2023』				
回数	授 業 内 容				担当講師
全130回	総合想定実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学内・外実習を総括し、より実践的な実習を行う。</li> <li>2. 関連した知識確認のための小テストを複数回受験する。</li> <li>3. 適宜、外部評価者の指導と評価を受け実技試験に備える。</li> </ol>				池田光隆 後藤正和
全5回	実技試験(国家試験受験資格評価) 日時 ・令和6年11月23日(土・祝)1限目～5限目(予定)  実施方法 ・3人一組で救急隊を編成し、学院内に設営する想定会場を順に巡り実技試験を受ける。 ・外部評価者により、隊長および隊員としての活動を評価表を用いて評価する。  外部評価者(予定) 医師 ・山家 純一(熊本赤十字病院第二救急科部長) ・原富 由香(熊本赤十字病院第三救急科部長) ・前原 潤一(済生会熊本病院救急センター長・救急総合診療センター救急科部長) ・佐藤 友子(済生会熊本病院救急科副部長) ・櫻井 聖大(熊本医療センター救命救急センター長) ・赤坂 威史(熊本市市民病院救急科部長) ・原田 正公(熊本市市民病院救急科部長) ・田代 尊久(悠愛病院院長) ・高井 英二(くまもと南部広域病院副院長) ・松園 幸雅(荒尾市立有明医療センター統括診療部長兼救急科部長兼HCU部長)  救急救命士 ・調整中				〃

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨地実習	科目名	消防実習
代 表 講 師	池 田 光 隆 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 臨地実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	3	学期・回数	前期：135時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	救急救命士である指導者が、消防機関における救急救命士の役割と必要な知識・技術・態度を指導する。				
授 業 概 要	消防本部との連携のもと、将来、就職を希望する消防機関の全体像を理解する。また、消防機関における救急救命士の役割と必要な知識・技術を学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消防職員とのふれあいをとおして社会性を身につけ、自発的に行動することができる。</li> <li>2. 消防機関の社会的役割と基本的な業務内容について説明できる。</li> <li>3. 消防機関及び社会における救急救命士の役割と責任について説明できる。</li> <li>4. 待機中における業務（資器材点検、訓練など）の重要性を説明できる。</li> <li>5. 救急隊・消防隊・救助隊の活動および通信指令・予防業務について説明できる。</li> <li>6. その他、消防職員及び救急救命士として必要な事項を説明できる。</li> </ol>				
成績評価の方法と基準	実習指導者との連携によるルーブリックを用いた実習態度評価（50%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（50%）				
テキスト・教材等	臨地実習要項、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』他				
期 間	授 業 内 容				
3週間	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査</li> <li>2. 事前学習課題（実施要項に記載）</li> </ol> <p>履修条件</p> <p>次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習課題レポートの内容が優れていること。</li> <li>2. 事前学習課題から出題する筆記試験に80%以上で合格すること。</li> <li>3. 少なくとも、次の実技試験に合格していること。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) バイタルサイン測定と評価</li> <li>(2) 救急現場における気道管理（喉頭展開含む）・呼吸管理</li> <li>(3) 救急現場における循環管理（静脈路確保）</li> <li>(4) 搬送法</li> </ol> </li> </ol> <p>実習消防本部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本市消防局</li> <li>・有明広域行政事務組合消防本部</li> <li>・人吉下球磨消防組合消防本部</li> <li>・水俣芦北広域行政事務組合消防本部</li> <li>・八代広域行政事務組合消防本部</li> <li>・天草広域連合消防本部</li> <li>・山鹿市消防本部</li> <li>・宇城広域連合消防本部</li> <li>・菊池広域連合消防本部</li> <li>・阿蘇広域行政事務組合消防本部</li> <li>・上益城消防組合消防本部</li> </ul>				

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨地実習	科目名	病院実習																											
代表講師	池田光隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院） 臨地実習指導者																															
授業方法	実習	単位数	4	学期・回数	前期：180時間																											
実務経験内容及び授業内容との関連性	医師である指導者が、救急医療に関する知識の応用と救急救命処置に関する技術と医療従事者としての態度を指導する。																															
授業概要	各医療機関との連携のもと、医療現場での見学と医療行為の介助などを通じて、診療の補助に対する理解を深める。また、救急医療に関する知識の応用と、救急救命処置に関する技術と医療従事者としての態度を修得する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodleを利用する。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師、看護師、傷病者等とのふれあいをとおして社会性を身につけ、自発的に行動することができる。</li> <li>2. 施設（部門）の構造と設備の特徴を説明できる。</li> <li>3. 傷病者がどのような機序で発症し、どのように経過していくのか、また、それに対する医療処置、看護、検査がどのような流れで行われていくかなどを関連づけながら説明できる。</li> <li>4. 医師、看護師等医療従事者の業務及びその連携について説明できる。</li> <li>5. 患者及びその家族に対して良好なコミュニケーションがとれる。</li> <li>6. インフォームド・コンセントの重要性について説明できる。</li> <li>7. 施設（部門）内での清潔区域・操作を把握し、感染防止策を実践できる。</li> <li>8. バイタルサイン、基本的な身体所見の観察ができる。</li> <li>9. 心電図、血中酸素飽和度、血圧、心音・呼吸音聴取等の諸検査ができる。</li> <li>10. 心肺機能停止患者に対する観察及び救急救命処置ができる。</li> <li>11. 内因性・外因性・外傷患者に対する観察及び救急救命処置ができる。</li> <li>12. 手術を見学し解剖生理及び、麻酔について説明できる。</li> <li>13. カンファレンス・症例検討会に参加して知識を深めることができる。</li> <li>14. その他、救急救命士として必要な事項を説明できる。</li> </ol>																															
成績評価の方法と基準	実習指導者との連携によるルーブリックを用いた実習態度評価（50%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（50%）																															
テキスト・教材等	臨地実習要項、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』他																															
期 間	授 業 内 容																															
4週間	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査</li> <li>2. 前年度の申し送りノートの記載事項確認</li> <li>3. 事前学習課題（実施要項に記載、別冊あり）</li> </ol> <p>履修条件</p> <p>次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習課題レポートの内容が優れていること。</li> <li>2. 事前学習課題から出題する筆記試験に80%以上で合格すること。</li> <li>3. 少なくとも、次の実技試験に合格していること。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) バイタルサイン測定と評価</li> <li>(2) 院内における気道管理（喉頭展開含む）・呼吸管理</li> <li>(3) 院内における循環管理（静脈路確保）</li> </ol> </li> </ol> <p>病院実習</p> <table border="0"> <tr> <td>熊本県内</td> <td>熊本中央病院</td> <td>県外</td> </tr> <tr> <td>・熊本大学病院</td> <td>・熊本地域医療センター</td> <td>・国立病院機構長崎医療センター</td> </tr> <tr> <td>・国立病院機構熊本医療センター</td> <td>・熊本機能病院</td> <td>・大分県立病院</td> </tr> <tr> <td>・熊本市市民病院</td> <td>・荒尾市民病院</td> <td>・新別府病院</td> </tr> <tr> <td>・熊本赤十字病院</td> <td>・熊本労災病院</td> <td>・宮崎大学医学部付属病院</td> </tr> <tr> <td>・済生会熊本病院</td> <td></td> <td>・宮崎県立宮崎病院</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・宮崎県立延岡病院</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・鹿児島市立病院</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・米盛病院</td> </tr> </table>					熊本県内	熊本中央病院	県外	・熊本大学病院	・熊本地域医療センター	・国立病院機構長崎医療センター	・国立病院機構熊本医療センター	・熊本機能病院	・大分県立病院	・熊本市市民病院	・荒尾市民病院	・新別府病院	・熊本赤十字病院	・熊本労災病院	・宮崎大学医学部付属病院	・済生会熊本病院		・宮崎県立宮崎病院			・宮崎県立延岡病院			・鹿児島市立病院			・米盛病院
熊本県内	熊本中央病院	県外																														
・熊本大学病院	・熊本地域医療センター	・国立病院機構長崎医療センター																														
・国立病院機構熊本医療センター	・熊本機能病院	・大分県立病院																														
・熊本市市民病院	・荒尾市民病院	・新別府病院																														
・熊本赤十字病院	・熊本労災病院	・宮崎大学医学部付属病院																														
・済生会熊本病院		・宮崎県立宮崎病院																														
		・宮崎県立延岡病院																														
		・鹿児島市立病院																														
		・米盛病院																														

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨地実習	科目名	施設実習 I
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 臨地実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	前期：45 時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	看護師・介護職である指導者が、保健医療チームにおける各種の機能、および業務上の連携、協調のあり方について指導する。				
授 業 概 要	各高齢者施設との連携のもと、入所者やデイケア、デイサービスの利用者との関わりをとおして、高齢者の主観的幸福感や生きがいについて考察し、理解を深める。また、保健医療チームにおける福祉の現状を理解し、救急救命士として業務上の連携、協調のあり方について学習する。 ※授業連絡や資料配布等には Moodle を利用する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者や職員等とのふれあいをとおして社会性を身につけ、自発的に行動することができる。</li> <li>2. 高齢者について全体像を身体的、精神的、社会的な側面から総合的に説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「古い」による様々な変化を説明できる。</li> <li>・安全への配慮、事故防止対策などを説明できる。</li> </ul> </li> <li>3. 救急救命士として高齢者救急の活動について留意点、その他必要な事項を説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者に応じたコミュニケーション技法（非言語的コミュニケーション、声の大きさやトーン、話す速さなど）が活用できる。</li> <li>・高齢者の特殊性を理解し、救急活動に直接通じる体位変換や移動の介助法を実践できる。</li> </ul> </li> </ol>				
成績評価の方法と基準	実習指導者との連携によるルーブリックを用いた実習態度評価（50%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（50%）				
テキスト・教材等	臨地実習要項、『改訂第 10 版 救急救命士標準テキスト』他				
期 間	授 業 内 容				
1 週間	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査</li> <li>2. 前年度の申し送りノートの記載事項確認</li> <li>3. 事前学習課題（実施要項に記載）</li> </ol> <p>履修条件</p> <p>次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習課題レポートの内容が優れていること。</li> <li>2. 事前学習課題から出題する筆記試験に 80%以上で合格すること。</li> </ol> <p>実習施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別養護老人ホーム天寿園</li> <li>・介護老人保健施設ケアセンター赤とんぼ</li> <li>・グループホーム おやまの郷</li> <li>・共生型デイサービス サン・フレンズ光の森</li> <li>・デイサービス ぼぼろ</li> <li>・第二コスモピア熊本</li> <li>・陽かりの郷</li> <li>・デイサービスぼぼろ 八王寺</li> <li>・デイサービスセンター明里</li> <li>・特別養護老人ホーム 悠優かしま</li> <li>・あおぞらの里 西原デイサービスセンター</li> <li>・シルバーピアさくら樹（デイサービス）</li> <li>・清雅苑</li> <li>・花へんろ</li> </ul>				

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨地実習	科目名	施設実習Ⅱ
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 臨地実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	前期：45時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	医師・看護師である指導者が、保健医療チームにおける各種の機能、および業務上の連携、協調のあり方について指導する。				
授 業 概 要	各精神科病院との連携のもと、罹患者との関わりを通じて、精神・神経疾患の症状、特徴について理解を深める。また、保健医療チームにおける精神科領域の現状を理解し、救急救命士として業務上の連携、協調のあり方について学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodle を利用する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>対象者や職員等とのふれあいをとおして社会性を身に付け、自発的に行動することができる。</li> <li>精神・神経疾患について全体像を身体的、精神的、社会的な側面から総合的に説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>精神に障害を持つ患者の治療の実際を説明できる。</li> <li>入院の必要性を、治療と精神保健福祉法の側面から説明できる。</li> </ul> </li> <li>救急救命士として精神科救急の活動について留意点、その他必要な事項を説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>看護師の対応から、傷病者への適切な接近方法を説明できる。</li> <li>対象者に応じたコミュニケーション技法（非言語的コミュニケーション、声の大きさやトーン、話す速さなど）が活用できる。</li> </ul> </li> </ol>				
成績評価の方法と基準	実習指導者との連携によるルーブリックを用いた実習態度評価（50%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（50%）				
テキスト・教材等	臨地実習要項、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』他				
期 間	授 業 内 容				
1 週間	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査</li> <li>前年度の申し送りノートの記載事項確認</li> <li>事前学習課題（実施要項に記載）</li> </ol> <p>履修条件</p> <p>次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事前学習課題レポートの内容が優れていること。</li> <li>事前学習課題から出題する筆記試験に80%以上で合格すること。</li> </ol> <p>実習施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>弓削病院</li> <li>益城病院</li> </ul>				

学 科	救急救命学科 2年次	教育 内容	臨地実習	科目名	施設実習Ⅲ
代 表 講 師	岩 永 ひとみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 臨地実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	後期：45時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	保育士である指導者が、保健医療チームにおける各種の機能、および業務上の連携、協調のあり方について指導する。				
授 業 概 要	各保育施設との連携のもと、乳幼児の実情を体感することにより、人間理解を深め社会性を養う。また、保健医療チームにおける保育の現状を理解し、救急救命士として業務上の連携、協調のあり方について学習する。 ※授業連絡や資料配布等にはMoodle を利用する。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>対象者や職員等とのふれあいをとおして社会性を身に付け、自発的に行動することができる。</li> <li>乳幼児について年齢ごとの全体像を身体的、精神的、社会的な側面から総合的に説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>成長過程による接し方（あやしかた・抱き方・遊び方など）ができる。</li> <li>年齢・月齢での違いを説明できる。</li> </ul> </li> <li>救急救命士として小児救急の活動について留意点、その他必要な事項を説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者に応じたコミュニケーション技法（非言語的コミュニケーション、声の大きさやトーン、言葉選び、集中のさせ方など）を活用できる。</li> <li>乳幼児の生活行動様式から救命の連鎖の最初の「予防」の必要性を説明できる。</li> </ul> </li> </ol>				
成績評価の方法と基準	実習指導者との連携によるルーブリックを用いた実習態度評価（50%） 専任講師によるルーブリックを用いた実習日誌評価（50%）				
テキスト・教材等	臨地実習要項、『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』他				
期 間	授 業 内 容				
1 週間	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ホームページ等を活用した実習先の位置、概況等の調査</li> <li>前年度の申し送りノートの記載事項確認</li> <li>事前学習課題（実施要項に記載）</li> </ol> <p>履修条件</p> <p>次の条件を満たしていない場合は臨地実習に必要な知識・技術を修得していないと判断し、実習を許可しないことがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事前学習課題レポートの内容が優れていること。</li> <li>事前学習課題から出題する筆記試験に80%以上で合格すること。</li> </ol> <p>実習施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小山保育園</li> <li>保育所みどり園</li> <li>やまばとこども園</li> <li>げんき保育園</li> <li>保育所なかよし園</li> <li>光の森武蔵ヶ丘保育園</li> <li>白鈴こども園</li> </ul>				